令和8年度(前期) 長柄町立長柄中学校 学校関係者評価

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	評価の観点	成果と課題	対策
学習指導 学力向上	○「ちばっ子の学び変革」推進事業の研究指定（２年目）を生かした授業改善の推進。（特に、ＩＣＴ機器の積極的な活用による、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善。） ○自分の考えを他者に伝える「表現力」の向上。 ○家庭学習の習慣化。	○全教科において、ペア・グループワークや１人１台端末を活用した「自分の考えをまとめ、発信（表現）する」活動の日常化。 ○要請訪問や年２回の相互授業参観（校内研究授業）を実施し、「表現力」の向上に焦点をあてた指導改善（指導法の統一と検証）。 ○「ながＬｅａｒｎタイム」で、タブレット端末を使ったオンライン英語教育プラットフォームによる個別最適な学び。	○全国学力・学習状況調査の記述式問題（表現力）における正答率の向上。 ○生徒アンケートにおける「毎日の授業は、内容が分かりやすくておもしろいと感じている。」「先生は、タブレット端末（1人1台端末）や電子黒板などを、授業で効果的に使っている。」の肯定意見８０％以上。 ○保護者アンケートにおける「学校は、家庭学習の充実（宿題の工夫やデジタルドリルソフトの推奨など）に向けた働きかけを適切に行っている。」の肯定意見８０％以上。 ○宿題や課題などの提出率８０％以上。	○成果として、「ちばっ子の学び変革」推進事業の取組により、授業内での発言や発表の機会が確実に増え、根拠をもとに文章や言葉で表現できる生徒が増加した。 ○課題として、授業内で高まった学習意欲が家庭での学習（自主学習）に連動しておらず、家庭学習の未定着（二極化）が依然として課題である。	○授業で学んだ内容と直結した「振り返り型・表現型」の宿題を工夫する。 ○家庭学習の工夫例（優れた実践をしている生徒のノート等）を、学年だよりや保護者懇談会で共有し、家庭での声かけを促す。
生徒指導 人間関係 キャリア教育 特別支援教育	○表現力を生かした他者理解による温かい人間関係の構築と、不登校生徒の早期発見・多面的な組織対応の強化。 ○３年間を見据えたキャリア教育の推進による、望ましい勤労観・職業観の育成と自己理解・自己管理能力の向上。 ○一人一人のニーズに応じた適切な支援。	○年５回の学校生活アンケート（いじめ・悩み等）や、年３回の教育相談や、タブレット端末を活用した毎朝の「心の健康観察」などによる心の小さな変化のキャッチ。 ○スクールカウンセラー（ＳＣ）やスクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）との生徒指導委員会（週１回）での情報共有。 ○毎月の特別支援教育委員会で情報共有し、一人一人の実態把握と支援について検討。 ○道徳科や学級活動での構成的グループエンカウンター（人間関係づくり）。 ○地域企業と連携した２日間の職場体験学習の実施と、事後のプレゼン発表会の開催。	○長欠（年間30日以上の欠席）生徒数の減少、および別室登校を含む登校日数の改善傾向。 ○生徒アンケートにおける「学校には、困ったことや悩みをいつでも相談できる先生や大人がいる。」の肯定意見８０％以上。 ○保護者アンケートにおける「学校は、いじめの早期発見や未然防止に努め、問題が発生した際には迅速かつ適切に対応している。」の肯定意見８０％以上。 ○生徒アンケートにおける「授業や学校行事などを通して、自分の将来の夢や進路、生き方について考える機会がある。」の肯定意見８０％以上。 ○保護者アンケートにおける「進路指導やキャリア教育を通して、お子さんが将来の見通しを持ち、生き方を考える支援がなされている。」の肯定意見８０％以上。 ○個別の教育支援計画・指導計画に基づく支援体制等の整備および運営状況。	○成果として、授業改善（主体的・対話的な学び）により、教室に居場所を感じる生徒が増え、トラブルへの早期対応（初期の段階での家庭連絡やＳＣ連携）がスムーズになった。 ○特別支援教育委員会で現状を情報交換し、支援および指導の方向性を共有している。 ○課題として、生活リズム等を崩してしまっている生徒に対し、家庭・学校・関係機関が一体となった長期的なアプローチが必要である。	○週１回の生徒指導委員会を核として、不登校生徒一人一人に寄り添い、支援計画に基づく組織的・段階的な復帰支援（学習支援含む）を徹底する。 ○生徒会活動をより一層充実させ、自治、自立を促進する。 ○学校生活アンケート項目をより具体的に改善し、「いじめ見逃し０」に努める。 ○校内研修等を通して、専門性の向上をめざしたい。
健康 安全 教育環境	○体力・運動能力の向上。 ○望ましい生活習慣（睡眠・食育）の定着と、自己の健康管理に対する意識の向上（特に運動習慣と食生活の改善）。 ○危機管理意識を高める防災・防犯教育の徹底と、誰もが安心して過ごせる美化・施設環境の整備。	○保健体育科の授業における体力向上の取組（導入での有酸素運動、サーキットトレーニング等）の継続。 ○養護教諭等と連携した「食育」の授業の実施、および給食時の放送による栄養バランスの啓発。 ○学校保健委員会における「肥満と生活習慣（食事・運動・睡眠）」をテーマとした、保護者・生徒・教員による合同熟議の開催。 ○警察や消防と連携した、不審者対応および大地震などを想定した年３回の避難訓練の実施。	○登下校時の交通事故・校内大ケガの発生件数ゼロ。 ○新体力テストにおける総合評価の向上。 ○学校保健統計における「肥満傾向児」の出現率の低下。 ○生徒アンケートにおける「規則正しい生活（睡眠・食事・運動など）を送り、健康に気をつけて過ごしている。」の肯定意見８０％以上。 ○生徒アンケートにおける「避難訓練や交通安全教室などを通して、災害や事件のときに、どう行動すればよいか理解できている。」の肯定意見８０％以上。 ○保護者アンケートにおける「学校は、防災・防犯対策や危機管理体制（不審者対策、気象警報時の対応など）をしっかりと整えている。」の肯定意見８０％以上。	○成果として、保健体育科の授業における体力向上の取組により、学校生活内での運動量は確保され、体力テストの結果は維持されている。 ○実践的な研修および未然防止策を積み重ね、大きな事故等はなかった。 ○課題として、長期休業中や平日帰宅後の家庭での食生活（間食・夜食等）や運動不足が影響し、校内全体の肥満率の高さが依然として改善しきれていない。	○「生活習慣チェックシート」等を活用し、定期的に家庭での生活リズムを見直す機会を作る。 ○家庭でのバランスの良い食事や適切な運動習慣に関する情報発信（保健だより等）を強化する。 ○安全点検簿の項目を適時更新し、新たな危険の防止・対応に努める。 ○登下校への対応について、地域との連携を強化する取組を工夫する。
学校運営 地域連携	○学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を核とした「学力向上」「健康増進」の課題を地域・家庭と共有する開かれた学校づくりの推進。 ○教職員の業務改善（働き方改革）を進め、生徒と向き合う時間を確保し、組織的な学校運営の推進。	○学校運営協議会において、「ちばっ子の学び変革」推進事業の研究成果や、学力・健康面の課題を開示し、熟議を実施。 ○学校支援ボランティア（通学路見守り、敷地内の美化作業、図書室の環境整備等）の積極的な受け入れと、地域コーディネーターとの連携強化。 ○ホームページやマチコミ等のアプリを活用した授業改善（表現力向上）の様子や、学校行事、健康管理に関するタイムリーな情報発信。 ○毎週月曜日を教職員の定時退勤日に設定し、残業時間の削減。 ○長期休業中における時差出勤の推奨。	○保護者アンケートにおける「学校だよりや学年学級懇談会を通して、学校教育目標や経営方針が明確に伝えている」「学校は、保護者からの意見や要望などに対して、誠実かつ迅速に耳に傾け対応している。」の肯定意見８０％以上。 ○保護者アンケートにおける「学校だよりや学年だより、ホームページ・マチコミメール等による、学校の様子や情報の発信は充実している。」「行事や学校支援ボランティアなどを通して、地域社会が学校の教育活動に協力的であると感じる。」の肯定意見８０％以上。 ○教職員アンケートにおける「業務改善（働き方改革）に取り組み、教育活動の質を高めるための時間や心のゆとりを確保できている。」の肯定意見８０％以上。 ○月４５時間を超える時間外勤務教職員数の減少。	○成果として、学校行事や授業の様子を積極的に発信したことで、学校の授業改善への努力に対する信頼と理解が大幅に高まった。 ○学力向上や肥満対策など、学校だけでは解決できない「家庭生活に踏み込んだ課題」に対して、地域住民や保護者の力をまだまだ巻き込みきれていない。	○学校運営協議会の中に、「学習支援部会」や「環境美化部会」「健康安全部会」等の小部会を設置し、地域の力を生かした活動などを工夫し、具体化していく。
学校関係者評価	・ＡＩの導入で学習が目覚ましく進化していることに驚いた。学力向上において、「ながＬｅａｒｎタイム」で時間を創出し、「オンライン英語教育プラットフォーム」などを活用し、英語科の指導にたくさんの工夫が見られた。全国学力・学習状況調査の結果から、「話す力」が著しく向上している。しかし、英語の長文等を正しく表現すること等に課題が見られた。また、他教科にも普及させ、学校全体での学力向上を図ってほしい。 ・生徒の心の小さな変化を見逃さないために、タブレット端末を活用した毎朝の「心の健康観察」はとても有効なので、継続してほしい。				